

JICA 教師研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	荻谷 魁人	学校名	東京都・道・府・県 清瀬市立 芝山学校
担当教科等	小学校全科	対象学年（人数）	6年 2組（27名）
実践年月日もしくは期間（時数）	年 月 ～ 月（ 時間）		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域： 総合		
2. 単元(活動)名： 世界の生活をみつめよう		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：「世界の生活をみつめよう」 単元目標：外国の文化や習慣について知る 詳しく調べたいことを見つけ、情報を集める 日本の文化や習慣のよさや他国との違いを多角的に考える 関連する学習指導要領上の目標：		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発展性や追究性のある自分の課題を見付けている。 ・ 既習事項を生かしながら課題を追究している。 ・ 進んで調べ学習をし、情報を活用している。
	②思考力、判断力、 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習したことを文、絵、図などを使って効果的にまとめている。 ・ 目的や意図に応じて工夫しながら分かりやすく表現している。
	③学びに向かう力、 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学んだことの成果を振り返り、次の学習や生活にすんで役立てている。 ・ 自分の学び方や考え方の良さに気付き、自信をもっている。 ・ 人との関わりから進んで学んでいる。
5. 単元設定の 理由・単元の 意義 (児童/生徒 観、教材観、 指導観)	【単元設定の理由】 現在、日本国内には多様なルーツをもつ人々が生活をしており、その人数が年々増加していることが見てとれる。外国の生活に触れ、人々について考えを巡らすことは、これから社会に生きる子供たちにとって、非常に有益な学びになることが考えられる。 【単元の意義】 この単元では、今まで日本国内に多く向けていた文化への目や習慣についての目を、初めて国外へと向けることになる。国外で暮らす人々が、どのような環境にいるのか、どのような考えをもっているのかといったことに触れることで、改めて自国や自分自身に視点を戻すことになる。そのように段階を経ることで、国外と国内の2つの視点を改めて学ぶことができる。 【児童観】 本学級の児童は、これまでの総合的な学習の時間に加え、他教科の学習の時間でも、調べ学習や学級での発表を多く行ってきた。特に、個人で新聞にまとめることや、タブレット端末を活用して写真を活用したスライドや文章にまとめることを多く行っている。その一方で、グループになり、話し合いながらテーマについての学びを	

	<p>深めることや、情報を伝えるための表現を工夫することはあまり行えていない。</p> <p>今回の学習を通して、自身の関心事を追求するための手段や方法、他者に適切に伝える方法について、児童それぞれが見付けていく。</p> <p>【指導観】</p> <p>総合の学習では、探求的な学びの基礎として調べ学習を主としてやってきた。今回の学習では、経験談を聞き、外国での生活のイメージを広げるとともに、日常的に、ザンビアでの生活の映像を見ることで、学習テーマを考えやすくする。また、インターネットや、本のみでの情報とならないように、インタビューやメール等による聞き取りを行うことで、本単元以外での学習にも生かしていけるようにする。</p> <p>さらに、失敗から学び自分の学習方法を確立していけるよう、支援や下準備は最低限にし、児童の中でのPDCAサイクルに働きかける。</p>
--	---

6. 単元計画（全13時間）

時間	学習のねらい	学習活動	資料など
1・2	学習テーマを決める契機をつくる	カンボジアに実際に行き、生活や文化を経験した人から現地での生活について話を聞いたり、考えたりする。	カンボジアでの生活についてのスライド
3～6	グループごとに、話し合い、学習計画を立てさせる	本やタブレット端末を活用して、世界の情報について、グループで分担しながら集める。 海外の何について学習を深めていきたいか、考えて準備する。	SDGsカードの掲示
7	他グループとの交流を通して、自グループの考えを深める	他グループに自グループの考えを共有し、新たな視点や解決案をもらい、自分たちの考えを深める。	
8～12	「伝える」ことを意識した発表準備をさせる	前時での意見交換や、グループでの話し合いを基に、学習を深めたり、発表の準備を進めたりしていく。 自分たちが調べたことと、日本との関わりや、調べた内容は日本ではどのような形であるのかを調べ、比較する。	スライド 模造紙 海外での生活について
13	自分たちのテーマ、調べた内容を分かりやすく伝える。	発表用に準備した資料を基に、友達へ分かりやすく、興味・関心を引くよう発表をする。	

7. 本時の展開（7時間目）

本時のねらい：グループの学びの深め方や、発表の工夫について、他のグループとの情報を交換し、自分たちのグループの学びの深め方や発表の工夫について見直させる。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
-------	----------------------------	-----------------	--------

<p>導入 (5分)</p> <p>展開 (35分)</p> <p>まとめ (5分)</p>	<p>T『話し合いの際には、3つのこと「何を深めたいのか」「どこに聞きたいのか」「発表上の工夫はどのように行う予定か」は、必ず話し合いましょう。』</p> <p>話し合いの際には、なぜその内容を深めたいのか、その機関に聞くことは適切なのかの検討、発表の工夫は、伝えたい内容に対して効果的なのかなどを話し合わせる。</p> <p>6グループが、ローテーションで回り、3つのグループから意見がもらえるようにする。</p> <p>話し合いの後に、自分たちのグループでもう一度3つの内容について練り直し、確定する。</p>	<p>児童同士で、有用なアドバイスが出てこなかった際には、教師が学習を深める際に活用できそうな場所や団体について、紹介する。(大使館、JICA等)</p>	
---	---	---	--

8. 評価規準に基づく本時の評価方法
他グループの考えや、アドバイスから進んで学んでいる。【発表・スライド】

9. 学習方法及び外部との連携
話し合い活動
海外渡航経験者に事前に連絡を取り、質問に答えてもらう。
JICA 関係者の方で、児童が知りたい国に行ったことがある方がいた際には、連絡を取り質問に可能な範囲で回答してもらう。
大使館に連絡を取り、回答が可能なものについて、メールで児童の質問に回答してもらう。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組
JICA 主催の勉強会への参加
校内研究で本単元の学習を行う。

【自己評価】

<p>11. 苦勞した点</p>	<p>第3時で、児童が自ら興味関心をもった事柄について調べていくため、テーマごとに分かれる点。今回は、日常の中で児童が選びそうなテーマに関連する教材を提示しておくことで、分散するようにした。</p> <p>第8～13時で、テーマに沿ってそれぞれのグループで、団体や個人に外国での生活について質問をする際、児童だけでは事前にアポイントメントを取ることが難しかったため、教師側で根回しが必要であった。また、海外にいる方へ連絡を取る際には、時差を考慮した時間でのやり取りとなるため、かなりの時間がかかり単元自体の期間を長くとる必要があった。</p> <p>さらに、今回は国についてもある程度の例示はしていたが、海外の官庁に聞くことは難しかった。</p>
<p>12. 改善点</p>	<p>今年度の反省を踏まえて、テーマごとの人数はあらかじめこちらで指定をする。また、テーマの内容もあらかじめ児童に聞いたものを集約し、改めて教師から提案する。そして関心をもったテーマを複数聞いたうえで、人数を割り振ることで、児童が主体的に学習に取り組むという側面を崩さないまま、人数やその後のアポイントメントを事前にとることができるような状態にしておく。</p>

13. 成果が出た点	<p>世界の生活について目を向けることで、これまで見えていなかった日本の生活についても考えることができていた。また、環境が異なることによって同じテーマであっても、関連するSDGsの目標が異なることに気付いている児童も見られた。</p> <p>また、これまでの書籍やインターネットから集めた情報だけでなく、実際の経験からくる話を聞くことで、得られる気付きや学びがあった。</p> <p>発表の際に、ただ分かったことを並べていくだけでなく、どのポイントに注目して欲しいのかを考えた資料の作成や、聞く側が飽きることなく学習に取り組むことができる工夫を考えることができていた。</p>
14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<p>別途、発表時に使用したスライド等を共有させていただきたいと思います。</p>
15. 授業者による自由記述	<p>今回の単元では、今後の学習につながるよう、世界の生活から、世界と日本の比較、世界の国の中での比較、日本国内での比較から、人権について考えることができることが一番良いかと考えていました。結果的には、世界と日本の比較から、SDGsの目標でも違いがあることや、目標の達成のためにできることがあるかも知れない。という方向に軌道修正していきました。今後は、今回の学習をきっかけに、世界の中での日本や、日本にある世界についても関心を広げられるよう、様々な場面でアプローチができたらと思っています。その一つとして、研修で訪れたような地域や施設の話は、子供たちにとってもとても刺激的な物のようでした。また、人権の問題についても、別の角度からアプローチをし、そこから様々なルーツをも人々に対する人権に反するような対応や投げかけられた言葉についても学習することができるようにしています。</p>